



文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

豊口 和士

これからの書写・書道教育 (2)

平成29年3月の小学校・中学校に続き、平成30年3月に高等学校学習指導要領が改訂・告示され、同年7月には高等学校学習指導要領の解説が公表されました。今年度末に市販本となり、これをもってすべての校種の学習指導要領等の一連の改訂作業が完了することになります。

今回の改訂では、幼・小・中・高を体系づけて捉えた上で、すべての教科において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し直しました。また、各教科の学びについて「何ができるようになるか」、「そのために「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」という視点を重視しています。

本連載では、今次改訂を踏まえた、これからの書写・書道教育について紹介していきます。

前回（平成30年10月号）に続いて今回は、平成30年3月に改訂・告示された高等学校学習指導要領を踏まえ、高等学校芸術科書道における改訂点のうち、目標について概説します。

一 芸術科の目標

第7節 芸術 第1款 目標

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

(2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようになる。

(3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

二 芸術科書道の目標

【書道Ⅰ】

1 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようになる。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

【書道Ⅱ】

1 目標

書道の創造的な諸活動を通し

て、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

(1) 書の表現の方法や形式、多様ななどについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

【書道Ⅲ】

1 目標

書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

(1) 書の表現の方法や形式、多様ななどについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

※引用文中の傍線は筆者が加筆。

三 資質・能力の三つの柱

前号でも紹介しました通り、今回の学習指導要領の改訂では、芸術科ならびに芸術科書道に限らず、全ての校種における全ての教科・科目の目標を、資質・能力の三つの柱の視点から、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)

「学びに向かう力、人間性等」と整理し直しました。

まず、書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおいて育成を目指す資質・能力を、書道Ⅰ「生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力」、書道Ⅱ「生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力」、書道Ⅲ「生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力」と発展的に示しています。そして、その実現のための目標を、資質・能力の三つの柱に基づいて(1)、(2)、(3)の項目として具体的に示し、それぞれを書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと進むに従って発展的に捉えられるようにしています。

傍線部をⅠ・Ⅱ・Ⅲで対照させると、発展性が捉えやすいと思います。

四 見方・考え方

芸術科の目標、芸術科書道の目標のそれぞれに「見方・考え方」とあります(二重傍線部)。「見方・考

方」とは、「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業改善が進められる中、特に「深い学び」の鍵として重視されているもので、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という、各教科・科目ごとの物事を捉える視点や考え方のことです。これは、各教科・科目の学習と社会をつなぐものでもあり、生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせられるようにすることが、学習を通じて目指され、それこそが「深い学び」の実現につながっていると、言うてよいでしょう。

芸術科書道における見方・考え方は、「感性を働かせ、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、意味や価値を見いだすこと」としています。そこでは、知性と感性の両方を働かせることが大切となります。